地域の活動から学ぶ

## 国内事例 in Japan **2**

# "持続可能性"とは何か well-beingな暮らしをつくる/ゼロエミやまなし



未来の山梨の姿を想像して描いた CG 作品。ゼロエミやまなしが創造したい自然共生の地域の絵として大切にしている (提供:株式会社レイスリー多田 朱利氏)

SDGs、ESG、脱炭素、気候変動 …次々と出てくるトピックは、私たちの暮らしの持続可能性に警鐘を鳴らしている。多くの地域でもこの問題に目を向け始めたが、「どうしたら良いかわからない」という感情が私たちを襲う。"持続可能な世界"というものを、具体的にイメージできないからである。山梨県北杜市を中心に、ゼロカーボンの実現を通じて、持続可能な地域づくりに取り組む一般社団法人ゼロエミやまなし(以下、ゼロエミやまなし)の事例から、そのイメージを捉えてみたい。

## 本質的な"ゆたかさ"への 挑戦

私たちの社会は、これまでそれぞれの価値観でそれぞれの"ゆたかさ"を求めてきた。しかし、その"ゆたかさ"は持続可能か、すなわち私たちの次の世代、そのまた次の世代に引き継げるものかどうかということを考える必要がある。「ゼロカーボンへのチャレンジは、何かを我慢することではない。自然と共生する未来は、自分自身のwell-being、本質的な"ゆたかさ"のためのチャレンジだ。」そう話すのは、ゼロエミやまなし代表の窪田氏だ。well-

being(ウェルビーイング)とは、 人が感じる幸福感のことで、健康で 安全で、心身が満ち足りた状態が継 続することを指す。ゼロエミやまな しでは、「持続可能で、well-being なCO2ゼロの脱炭素社会を2050 年までに実現する」というビジョン を掲げ、その状態が現代世代にもた らされること、さらには将来世代に リレーできることを目指している。

#### 地域の資源と課題

山梨県北杜市は、八ヶ岳や南アル プスなど美しい山々を臨む、景観に 優れた観光地として有名である。そ の他に、ミネラルウォーターの生産 量、日照時間が日本一という、まさ に地域資源の豊富な地域で、古くか ら首都圏からの移住地としても好ま れている。その風土に惹かれる移住 者も多くいる一方で、北杜市の自然 資源にビジネスとして魅力を感じる 企業も多い。太陽光による再生可能 エネルギーの生産に適している北杜 市には、多くの太陽光パネルが設置 されているが、景観保全や生物多様 性保全の観点などから反対する地域 住民の声もあり、資源が豊富なゆえ に、多様な価値観の共存に難しさを 抱える地域でもある。

## 地域の人が享受する めぐみ

ゼロエミやまなしでは、北杜市において、FIT(再生可能エネルギー固定価格買取制度)による買い取り期間が切れる太陽光パネルの活用の検討、実証を始めている。時に厄介者扱いとなる太陽光パネルも、考えてみたら貴重な地域の資源である。地域における対立の背景があるテーマだからこそ、彼らは、今ある地域資源を最大限に活用すること、そして、その恵みをその地に暮らす人々がいちばんに享受できる状態を目指



太陽光パネルから、EV車に充電する実験の様子

し、使われていない公共施設の ZEB化や、EVモビリティを活用し、 滞在するだけでゼロカーボンに貢献 できるワーケーションプランや、野 立て太陽光パネルを活用した庭先充 電など、ユニークなアイディアを実 践している。

### 地域を"見える化"する

これらの実践を、研究者、金融機 関、IT企業、観光事業者、農業者、 地元事業者、NPO、個人···と、地 域内外の実に多様なメンバーが、ゆ るやかにつながり合いながら、そし て、楽しみながら行っている。この 多様なつながりを保つために、ゼロ エミやまなしが大切にしていること がある。それは、「事実の見える化」 である。地域の活動では、地域を持 続可能にしたいという思いは共通し ていても、それぞれの立場によって 見ている世界が異なることはよくあ る。その時に、データを用いて現状 を客観的にとらえることが、多様な 価値観を持つ者同士が、共に議論を すすめていく手助けとなる。どこに どれくらいの再生可能エネルギーの ポテンシャルがあるのか、その資源 の現状はどうなのか。また、いつ、 どこでどれくらい、エネルギーは必

要なのか。ゼロエミやまなしでは、ジオデザイン・ワークショップ<sup>1</sup>という手法を用い、研究者や行政の力も借りながら、着実に進めている。



多様な関係者がともにビジョンを共有する意見 交換会の様子

## ゼロエミやまなしの 描く未来

第五次環境基本計画を紐解くと、 地域循環共生圏の実現とは、すべて を自然の力にゆだねる原始の暮らし に戻ることでも、すべてをテクノロ ジーと人工物に頼ることでもなく、 新しい文明・文化を模索することで あることが分かる。地域に暮らす私 たち一人ひとりのパラダイムシフト が求められ、一朝一夕でかなうこと ではない。私たちは今、これまで信 じてきたものを手放すことへの不安 と、正解が分からない混沌の中に立 たされている。しかし、事務局長の 志沢氏は「心の扉を開いて、お互い の話を聴き、認め合う中から、新し い文化が生まれてくると思う」と語 る。それぞれのwell-beingを実現 するということは、正解を一つにそ ろえることではない。ゼロエミやま なしが目指すのは、地域の人も、こ こで働く人も、移住者も、これから 生まれる子どもたちも、すべての人 がここで働き続けたい、住み続けた いと思う地域である。それこそが、 地域が主体となって紡ぐ、地域循環 共生圏だ。

※1 ジオデザイン・ワークショップ:ジオデザインは「ジオ (地理)」と「デザイン (設計)」を合わせた造語。科学的情報や社会的情報をGISなどを用いて地図上にプロットし、議論の土台にして地域づくりを進める手法。